

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会
社会福祉法人 石心福祉会
医療法人社団 東京石心会
医療法人 鶴見会

海燕

うみつばめ No.71 2016年3月

発行人：石井暎禧
編集人：辻田征男 発行：石心会本部
〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地
ソリッドスクエア東館4階
TEL 044-511-2266 (代) FAX 044-540-1135
<http://www.sekishinkai.or.jp>

提言

はじめに

昨年、『海燕』3月号で「お金の話」を書いた。その趣旨は、投資規模が過去最大となる2017年度の埼玉石心会病院新築移転を目前にして、石心会の経営基盤は脆弱すぎることを。

特に医業収益において法人全体の60%以上を占める川崎幸病院・埼玉石心会病院がそろって仲良く大赤字を出し、全体の業績の足を引っ張っている。これを改善するには、根本的にこれまでの見方・やり方を変えなければならないことを説いた。あれから一年経ったが両病院の成果は上がったのか？ また、現在の到達点と今後の課題（目標）は何か？ そしてそれを数値で示すこと。それが「続・お金の話」と名付けたこの続編の目的とするところである。

1. 利益とは未来費用である

企業における利益とは何か？

企業活動において（それがたとえNPOなどの非営利企業にあっても）利益が必要なことは大方の人が認めるところだ。しかし、少数だがそれを否定ないし罪悪視する人もいる。

そこで企業の利益というものの本質を考えてみたい。

経理係の人に聞けば、利益とは「収入－費用」という簡単な計算式を教えてくれるに違いない。しかし、そこには価値観が含まれず、人々の行動規範とはならない。

だが、ここに企業における利益の社会的・倫理的意味を探究し、「利益とは未来費用である」と明快に定義して企業家のみならず

続・お金の話

辻田征男

社会医療法人財団石心会専務理事

世界の人々に大きな影響を与えた人がいる。それは、かの高名なP.F.ドラッカー（1909－2005年）である。

Profits are the costs of future, the cost of staying in business.（『すでに起こった未来』）

かれがいう未来費用とは、父の友人でもあった世界的経済学者ヨーゼフ・シュンペーター（1883－1950年）が唱える「未来のコスト、企業存続のコスト、創造的破壊のコストを賄うに十分な資本形成」という考えを引き継いだものであり、カール・マルクス（1818－1883年）が邪悪なものと切り捨てた企業利益の積極的意義＝倫理性に光を当てたものだ。

実際、今日の我々の常識からしても、企業利益とは、不安定な未来に対する企業存続のための費用、将来投資のための必要欠くべからざる資源であることは明白であり、ドラッカーの定義は実に腑に落ちるものである。ドラッカーはまた「経営者ですら誤解しているが、利益などというものは存在しない。存在するのは未来費用のみだ」（『す



で起こった未来』)とまで言い切っている。

2. 経営改善の処方箋は何か？

石心会は多くの事業を毎年手がけている。だが、規模からいって最大のイベントは、現在工事中であり来年11月完成オープン予定の新・埼玉石心会病院開院だということはだれもが知っている。

だが、この事業を最初に提唱した私がつい最近まで憂鬱でならなかった。

なぜか？ それは、このままの経営状態で新病院の開院を迎えれば石心会は破たんすると思っていたからである。

実は二つの誤算があった。

一つ目は、平成24年に新築移転した川崎幸病院が3年目の平成26年度決算においてもまだ大きな赤字を出す見込みであり、黒字転化のめどが立たなかったこと。もう一つは、これまで年間3億円程度の利益を安定的に出してきた埼玉石心会病院が平成26年度に突然3.3億円の赤字を出す見込みになったからである。このような状態で新病院開院に至れば、他の好調なクリニックの利益を集めても石心会は破たんを免れない。**破たんした企業に働く者は悲惨な人生を送るのが通例だ。**

そこで、1年前『海燕』誌上において、私はこれまでとは発想を根本的に変えることを提唱した。その趣旨はこうである。

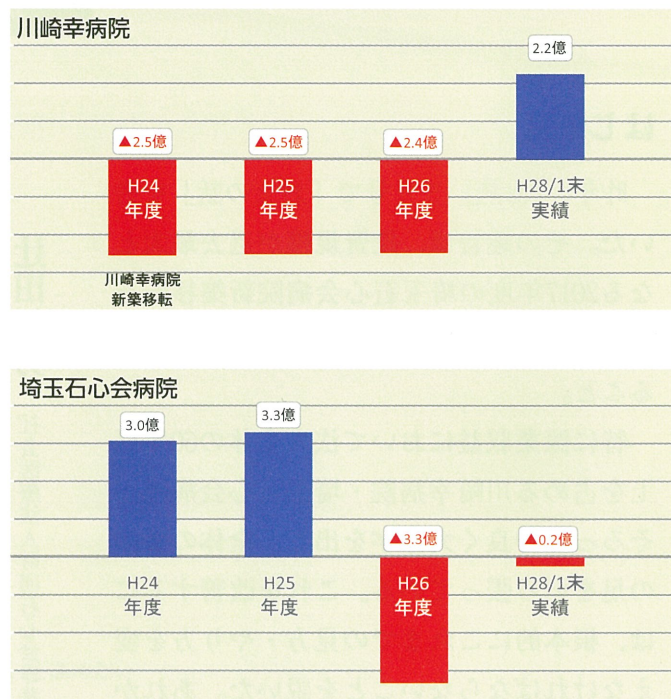
石心会の二つの病院は医業収益において、徳洲会やアライアンスを組むカマチグループと比べても決して遜色のない成績を残してきているが、利益に関しては極めて貧相で、その理由は医業費用率が高すぎる。これは、我々が高い医業収益（高い医療水準）の実現にのみ目を奪われ過ぎたため。従って今後は、高い医業収益の実現に責任を持つライン（**creative-line**）＝診療部に加え、最少の費用で医療を支えることを自らのミッションとするライン（**operation-line**）＝事務部がコストダウンを強力に行い、もっと利益を出さねばならないと説いた。

誤解のないよう言っておきたいが、全職種・全職員が一丸とならないと経営改善はできない。しかし、問題はだれがリーダーシップを取って断行するかとい

うことであり、そのためには責任の所在を明確にしておかなければならない、というのが私の主張である。

3. 石心会の経営は改善したか？

グラフ1: 病院別経常損益(利益)推移(4ヵ年)



グラフ1は、川崎幸病院および埼玉石心会病院の平成24年度から4年間の経常損益（利益）の推移をグラフにしたものである。平成24年度からにしたのは、川崎幸病院の新築移転元年（平成24年6月）からの推移を見たいからである。

川崎幸病院は、すでに昨年比で5億円以上損益が回復し、本年1月時点で2.2億円の利益を出している。新築移転後初めての黒字決算は間違いない。

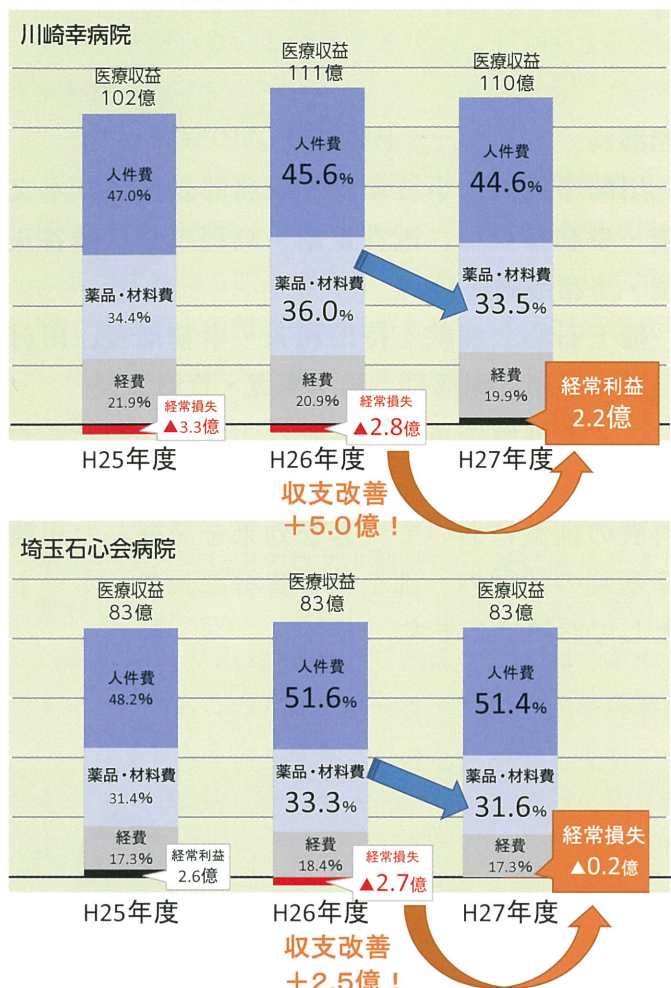
埼玉石心会病院は、1月時点ではまだ赤字であるが、おそらく3月の期末には多少の利益が出るはずである。

グラフ2は、今期を含む3年間（4月～1月）の業績の推移をグラフ化したものである。どの項目が改善されたか、されなかったかが一目で分かる。

川崎幸病院の業績回復の理由は、計画通り医業費用が圧縮されたことであるが、なかんずく薬品・材料費率が2.5%、人件費率及び経費率がそれぞれ1%下がったのが大きい。

埼玉石心会病院の業績回復が、川崎幸病院に比べて遅いのはグラフを見れば一目瞭然であるが、薬品・

グラフ2: 病院別損益(利益)三期比 4月～1月累計



材料費率の改善率に比べ人件費率が下がらないからである。これは、職員数の問題であり、主たる原因は新築移転のための職員の増員のスタートが早すぎたためである。

だが、昨年比2.5億円の損益改善は目覚ましいものであり、**operation-line**が強力に効きはじめているのは間違いない。

こうした両病院の医業費用の改善に比べて医業収益面での増収は、両病院ともほとんどない。しかし、両病院（特に川崎幸病院）とも1ベッド当たりの医業収益の水準は、世間的に見てTOPレベルにあり、これ以上の増収に過度な期待を寄せるのは無理がある。

また、両病院とも目覚ましい改善を見た薬品・材料費率の成果は、診療部の全面的な協力があってこそ実現したことを忘れてはならない。

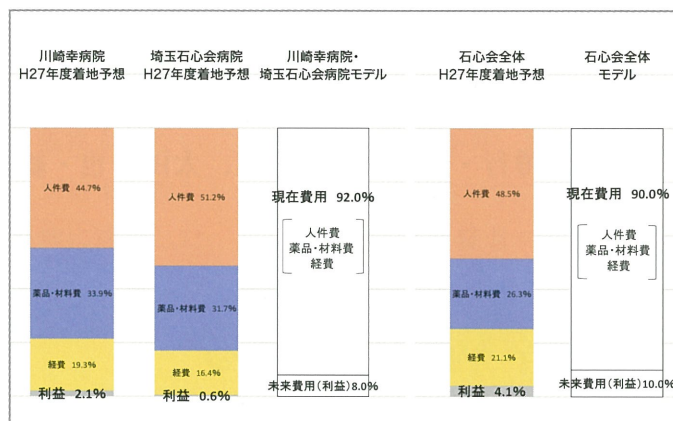
4. これから何をなすべきか?

これまで述べてきた成果は、石心会の経営が破たん懸念レベルからは脱したことを意味していると思う。

それでは次なる課題は何か?

それは、法人全体で安定的に医業収益比10%（両病院は8%）の利益を出すことである。この数値は、アライアンスを組むカマチグループではとくに実現しているものであり、将来の積極的な投資を可能にする数値である（グラフ3参照）。

グラフ3



石心会においては、平成28年度は一気にこの利益を達成することはできない。しかし、私は両病院が28年度には今期以上の好業績を出し、法人全体としても開設以来の利益を出せそうな気がする。そうすれば、昨年3月に提唱した1000日（3年）計画が2年で達成できることになり、V字回復と言って胸を張れるだろう。ネガティブな要因としては、今年の診療報酬改定がマイナス改定であることがあげられる。だが、何度も言うようだが、不安定な医業収益に過度な期待を寄せずに、医業コストの圧縮に励むことだ。薬品・医療材料はこれまで積み上げてきたノウハウを以て、より一層のコストダウンを目指し、人件費については現状の水位を概ね**keep**できれば自然と理想の形に近づいていくと思う。極論すれば**operation-line**次第なのである。

1年後には、「**続／続・お金の話**」を書くことになるかもしれないが、**お金の話**はもうこれでおしまいにしたい気持ちもある。

コスト削減委員会の活動紹介

編集部

コスト削減委員会は、川崎幸病院・埼玉石心会病院および本部の事務職員の中から選ばれた担当で構成され、事業所のコスト削減を担当し、月に1回は本部事務局において開かれる「本部コスト削減会議」に出席します。

「本部コスト削減会議」では、本部および2病院のコスト削減に関する情報の交換と削減策の議論をしています。

コスト削減委員会の構成は次の通りです。

本部：辻田征男・事務局長(コスト削減会議議長)、中尾博行・経理・財務部長、太田一也・総

務部長

川崎幸病院：小林和彦・事務部長、佐々木文俊・事務部長付、近森正昭・経理課長、納谷正俊・事務部副部長

埼玉石心会病院：持田和夫・事務部長、田村昌子・事務部副部長、橋本輝寛・資材課長

コスト削減委員会の活動は、多岐にわたるためすべてを紹介することは困難なので、医療材料費の削減において大きな効果を発揮した川崎幸病院の活動の一部を納谷資材課長のレポートとしてお届けします。

川崎幸病院における医療材料費削減活動について

納谷正俊 川崎幸病院事務部副部長



はじめに

私は以前いた職場において病院の破たんを経験しています。破たんした病院の患者、職員は、言葉では言い表せないほどの悲惨な事態になるものです。

「二度と同じ経験をする訳にはいかないし、そうはさせない」そのような思いを胸に、この1年間川崎幸病院のコスト削減に取り組んできました。

1. コスト削減活動とは？

当院における今年度のコスト削減目標は、医薬品6,000万円、診療材料1億4,000万円合わせて2億円です。私はその中で診療材料担当であることからそのコスト削減活

動を中心にお話ししたいと思います。

ここ10年、診療報酬改定の度に診療材料点数は下がり続けています。追い打ちをかけるかのように平成26年4月には、消費税が3%上がり8%になりました。平成29年には消費税がさらに2%上がると言われていました。そんな中、価格を下げることは簡単ではないし、ましてや特別価格獲得など非常に困難であるというのが医療界の常識でした。そこで私は医療業界の「常識」は「非常識」と考えることにしました。つまり、固定観念にとらわれず、知恵と発想を振り絞り診療科の特性を考えながら取り組みようと決心したのです。

まず循環器科では、メーカーと

年間購入数量契約を締結しました。循環器科領域の診療材料は、一般的に院内に在庫がありながら病院在庫ではない。委託在庫すなわちメーカー在庫であり、使用してはじめてメーカーから請求される仕組みになっています。この方法は病院にとって多くのメリットがあります。一つひとつが高額な診療材料であるが、一度に購入する必要がなくデッドストックになる危険性もない。滅菌期限が切れ使用不可能になる心配もない。仮にデッドストックになった場合や滅菌期限が切迫した場合は、メーカーが交換してくれる。さらに在庫管理も不要（在庫計上不要）である。すなわちすべてのリスクを

メーカーが負い、その負担名目で価格が下がらないというデメリットを伴うのです。

そこで当院では、循環器科チームと緊密な連携を取って緻密な計画を立て、年間購入数量をメーカーと共に決めた上で、メーカーとの間で分割購入の契約書を交わしました。その結果メーカーに年間購入数量を約束し、一部リスクを病院が担うことで特別価格獲得に成功したのです。そしてこのことが年間2,300万円以上のコスト削減に繋がりました。

さらに思わぬ効果も出ています。どうやらこの方法はメーカーにとっても大きなメリットがあるようで次期契約に向け他メーカーが積極的にアプローチしてきているのです。このことはますますこれからメーカー間の競争原理が働くことを意味しています。

もう一つの方法は、ディーラーを変更したことです。これらの方法で価格交渉を行い年間2,500万円以上のコスト削減に成功しました。このディーラー変更も決して強引にやったものではなく、きちんと時間をかけ話し合い、それぞれのディーラーの納得のうえで実行しました。

実はこういったプロセスがとても重要で将来的には価格メリット

に反映すると私は考えています。信頼できる病院であるからこそメーカーもディーラーも良い条件を持ってきてくれるのです。

整形外科でも同じような方法で、まだ特別価格とまではいかないが結果として年間1,300万円以上のコスト削減に成功しました。さらに心臓血管外科では日本一を誇る手術件数と将来の有望性を武器にして年間2,900万円以上、外科、麻酔科を中心に年間1,000万円以上の削減に成功しました。

また、どうしても価格が出ないものはインセンティブ約束に持ち込み、年間購入目標数に達成した場合、さかのぼって値引きが入る仕組みを作りだしました。

ただ誤解を招くようで心配な点は、このようなコストの大幅な削減は、今年度から突然価格交渉を始めて出てきた金額ではなく、平成25年度は7,300万円（税込）以上、平成26年度は8,400万円（税込）以上のコスト削減を成功させ、そうした積み重ねが現在に繋がっているということをご理解いただきたいのです。

2. 今後の課題

前項で述べた通りメーカーに対し特別価格を出すための裏付け（根拠）を示せば、価格は必ず下がり

ます。具体的に言えば使用約束と件数目標を提示することです。

さらに診療材料実績ABC分析におけるC部分、すなわち点滴ライン関係、テープ類、シリンジ・カテーテル類など、毎日使用する材料の取り組みもこれからは必須です。

運用面では在庫管理が重要になります。特にメーカー、ディーラーへの「至急」を減らしたい。メーカー、ディーラーから見れば「至急」が多い施設には、その対応に余計な経費がかかり、特別価格が出にくくなるからです。

来年度も病院経営のV字回復の為に1億4,000万円のコスト削減（平成28年度予算目標）を目指して取り組みたいと思います

3. 協力していただいた方々へ

ここまで来ることができたのは、診療部、看護部、コ・メディカル部、事務部の方々の多大なるご協力の賜物です。この場を借りて幾重にも感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

そしてこれからも職員一丸となって日本一のコストパフォーマンスを目指したい。それが私のミッションであると胸に誓っております。どうかよろしく願いいたします。

学会発表一覧 (2015.12 ~ 2016.1)

◆川崎幸病院

学会発表

診療部

【国際学会】

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
島村淳一	心臓血管外科	2015.12.4 ~ 6	BIT'S 7th Annual International Congress of Cardiology 2015	Open Conversion Surgery after Prior Thoracic Endovascular Aortic Repair	上海	一般・口演

【全国学会】

成田和広	外科	2015.12.2 ~ 3	第 28 回日本外科感染症学会学術総会	抗菌薬含有糸による手術部位感染の予防効果	名古屋	一般・口演
小根山正貴	外科	2015.12.2 ~ 3	第 28 回日本外科感染症学会学術総会	当院での腹壁瘻ヘルニア修復術における創感染軽減への工夫	名古屋	一般・口演
佐藤 俊	外科	2015.12.2 ~ 3	第 28 回日本外科感染症学会学術総会	当科での腹膜炎手術の感染創に対する NPWT の治療成績	名古屋	一般・口演
成田和広	外科	2015.12.10 ~ 12	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	当院における腹腔鏡下 S 状結腸切除術に対する Reduced Port Surgery と治療成績	大阪	一般・口演
太田 竜	外科	2015.12.10 ~ 12	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	早期大腸癌に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術の治療経験	大阪	一般・口演
網木 学	外科	2015.12.10 ~ 12	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	複数回再発の鼠径ヘルニアに対する TAPP 法の検討	大阪	一般・口演
小根山正貴 (代演: 関川 浩司)	外科	2015.12.10 ~ 12	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	当科における単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (SingleTEP) の標準化への試み	大阪	一般・口演
藤岡俊一郎	心臓血管外科	2016.1.24 ~ 26	第 30 回心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	家族性高コレステロール血症を伴う胸腹部大動脈瘤に対して人工血管置換術を施行した一例	新潟	一般・口演
島村淳一	心臓血管外科	2016.1.24 ~ 26	第 30 回心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	完全内臓逆位に合併した急性 A 型解離の一手術例	新潟	一般・口演
広上智宏	心臓血管外科	2016.1.24 ~ 26	第 30 回心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	動物咬傷による感染性大動脈瘤の治療経験	新潟	一般・口演
長谷聡一郎	放射線 IVR 科	2016.1.29 ~ 30	第 27 回日本骨軟部放射線研究会	Kaposiform hemangioendothelioma of the neck in a neonate	東京	一般・口演

【地方学会】

網木 学	外科	2015.12.5	第 7 回神奈川ヘルニア研究会	再発鼠径ヘルニアに対する TAPP 法の工夫	横浜	一般・口演
------	----	-----------	-----------------	------------------------	----	-------

【講演】

佐藤 俊	外科	2015.12.21	川崎市外科医会学術講演会	腹腔内感染症に対する治療—下部消化管穿孔について—	川崎	講演
------	----	------------	--------------	---------------------------	----	----

看護部

酒井千鶴子	看護部	2015.12.2 ~ 3	第 28 回 日本外科感染症学会学術集会	下部消化管穿孔の術後創管理に陰圧閉鎖療法を使用したストーマ管理に関する一症例	名古屋	一般・口演
武良由香	感染管理	2015.12.2 ~ 3	第 28 回 日本外科感染症学会学術集会	抗菌薬含有糸による手術部位感染の予防効果	名古屋	一般・口演
當山 輝	手術室	2016.1.24 ~ 26	第 30 回 心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	特定行為に関する看護師の研修制度と当院心臓血管外科周術期管理の検討	新潟	一般・口演
佐藤悠輝	大動脈センター	2016.1.24 ~ 26	第 30 回 心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会	一般病棟における胸部大動脈手術後の気管切開離脱困難例の検討	新潟	一般・口演

コメディカル部

中 孝文	放射線科	2015.12.1 ~ 4	RSNA2015 (第 101 回北米放射線学会)	Diagnostic value of DWMRI in abdominal oncology: latest topics and clinical applications	シカゴ	モニター発表
中 孝文	放射線科	2015.12.1 ~ 4	RSNA2015 (第 101 回北米放射線学会)	Clinical Utility of Non-contrast-enhanced MRA at 1.5T: bases and Applications for clinical practice	シカゴ	モニター発表
八馬拓也	CE 科	2016.1.24 ~ 26	第 30 回 心臓血管外科ウィンターセミナー学術大会	左心バイパスにおける通常型開放型回路と半閉鎖型回路の比較検討	新潟	一般・口演
八馬拓也	CE 科	2016.1.24 ~ 26	第 30 回 心臓血管外科ウィンターセミナー学術大会	川崎幸病院における Modified left heart bypass について	新潟	一般・口演

古田佳祐	リハビリテーション科	2016.1.24～26	第30回心臓血管外科 ウィンターセミナー	StanfordA 型急性大動脈解離術後の歩行自立獲得に関する検討	新潟	一般・口演
浅田浩明	リハビリテーション科	2016.1.24～26	第30回心臓血管外科 ウィンターセミナー	年齢別の運動機能ならびにADL回復状況から見た大動脈置換術の術後成績	新潟	一般・口演

論文・教科書執筆等

診療部

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
西村潤一	放射線 IVR 科	臨床画像 Vol.32, No1, 2016	リンパ管のIVR -最前線を切り開くエキスパートの流儀- 川崎幸病院編	書籍

看護部

長尾雄太・山口千鶴・渡邊ありさ	9 階南病棟	Brain Nursing 32(3) 2016 メディカ出版	急性期脳卒中患者のせん妄に関する文献レビュー	書籍
長尾雄太	9 階南病棟	日本看護管理学会誌 19(1) 2015	看護師の共感性および社会的スキルが感情労働に及ぼす影響	論文

コメディカル部

中 孝文	放射線科	日本磁気共鳴医学会雑誌 VOL.35 No. 4 2015	頸動脈プラークT1WIにおけるcartesianおよびradial充填法の比較	論文
中 孝文	放射線科	MRI 2016 BOOK	Usefulness of Whole-Body-MRI image for detection of malignant tumors at 1.5T	書籍
中 孝文	放射線科	Rad Fan 2016年2月号	How to Get Accepted into RSNA Road to RSNA	書籍
松田悠史	医療相談科	脳の看護実践 2・3月号	高次脳機能障害患者の地域支援ネットワーク・社会資源について	書籍

◆川崎健診クリニック

学会発表

看護部

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
江頭直子	看護科	2016.1.29～30	第44回日本総合健診医学会	血管迷走神経反射（VVR）の発症要因と対応について	東京	一般・口演

◆埼玉石心会病院

学会発表

診療部

【国際学会】

山根正久	循環器内科	2016.1.16	IMC2016	CTO Guide Wire Concept in Antegrade Approach with or without Gaia Family	サウジアラビア	一般・口演
黒木崇文	循環器内科	2016.1.20～24	asia PCR singapore LIVE	Spontaneous coronary artery dissection in an elderly female observed with optical frequency domain imaging	シンガポール	一般・口演
畠 信哉	循環器内科	2016.1.20～24	asia PCR singapore LIVE	The luminal gain of chronically shrunk coronary vessels after stenting at proximal severely stenotic lesion	シンガポール	一般・口演

【地方学会】

山田哲也	整形外科	2016.1.30	第30回東日本手外科研究会	Linburg anomaly の1例	横浜	一般・口演
------	------	-----------	---------------	---------------------	----	-------

【講演】

演者：秋山好美 座長：元志宏	栄養室 腎臓内科	2015.4.7	CKD-MBD 講演会 in 狭山	『慢性腎臓病に対する食事療法基準2014版』患者指導に活用するために	埼玉	講演
-------------------	-------------	----------	-------------------	------------------------------------	----	----

看護部

山谷奈美子	3 階北病棟	2016.1.23	第23回埼玉看護研究学会	術後離床に影響を与える要因の調査～腹部消化器外科手術を受けた患者へのアンケート調査より～	大宮	ポスター
竹崎敏江	4 階南病棟	2016.1.23	第23回埼玉看護研究学会	静脈留置針の自己抜去予防安全用具を使用しての効果～ストッキングを用いて～	大宮	ポスター

論文・教科書執筆等

診療部

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
元 志宏	腎臓内科	日本透析医学会雑誌48巻3号 (J-STAGE)	透析患者に生じた腎周囲血腫8例の特徴	その他
元 志宏	腎臓内科	日本透析医学会雑誌48巻Suppl.1	血液透析患者におけるルビプロストンの有用性	書籍

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
元 志宏	腎臓内科	内科116巻4号(PierOnline)	器質性肺炎に対するステロイド治療中に糖尿病性舞蹈病を発症した1例	その他
元 志宏	腎臓内科	新薬と臨床64巻12号	当院でのトルバプタンの使用経験	書籍
佐々木峻也	腎臓内科	日本透析医学会雑誌48巻 Suppl.1	血液透析患者における感染性心内膜炎の特徴についての検討	書籍
佐々木峻也	腎臓内科	腎と透析78巻5号	Adaptive servo ventilationによる透析関連低血圧に対する効果についての検討	書籍
野辺香奈子	腎臓内科	日本透析医学会雑誌48巻 Suppl.1	クエン酸第二鉄投与によるESA治療、鉄動態への影響についての検討	書籍
磯部聡史	腎臓内科	日本内科学会関東地方会613回	明らかな全身性細菌感染症を認めずプロカルシトニン高値を呈した悪性症候群の1例	書籍
高橋和宏	腎臓内科	日本内科学会関東地方会612回	診断に苦慮した透析患者における感染性心内膜炎の1例	書籍

コメディカル部

沖田紀之	CE室	埼玉透析医学学会誌4巻2号(メディカルオンライン)	当院における在宅血液透析導入の経験	その他
------	-----	---------------------------	-------------------	-----

事務部

高田賢将	診療情報管理室	INNERVISION 付属 ITVISION	DPC 分析ツールで医療効率化の糸口を探れ!	雑誌
------	---------	-------------------------	------------------------	----

◆さやま総合クリニック

学会発表

【講演】

発表者	部署	期間	学会名	演題名	開催地	発表形態
林 良寛	小児科	2015.12.15	ビジョン「にっこり授乳期研究会」	「日本のママの授乳期の現状と授乳期の大切なポイント」ディスカッション	東京	ディスカッション

◆さやま腎クリニック

学会発表

【講演】

演者：常喜信彦 座長：池田直史	東邦大学医学部腎臓学講座(大橋)准教授	2015.4.7	CKD-MBD 講演会 in 狭山	「思い通りに石灰化はよくなっているのか? - 心血管疾患からみた CKD-MBD 診療 -」	埼玉	講演
演者：土谷健 座長：池田直史	東京女子医科大学第四内科臨床教授	2015.7.28	埼玉西部 CKD-MBD 研究会	『保存期から見据えた CKD の治療戦略』	埼玉	講演
演者：廣岡良隆 座長：池田直史	九州大学循環器病未来医療研究センター先端循環制御学部門 教授	2015.11.5	埼玉西部腎臓病講演会	『高血圧治療の present & future』	埼玉	講演
演者：小松原重雄 座長：池田直史	早稲田大学理工学術院経営システム工学科 教授	2015.11.7	透析マネジメントフォーラム 2015	透析医療における安全を考える ～医療安全へのレジリエンスアプローチ～	東京	講演

論文・教科書執筆等

発表者	部署	雑誌名	タイトル	分類
鈴木洋通(池田直史協力)	埼玉医大腎臓内科	血圧22巻3号(メディカルオンライン)	イルベサルタンの高圧効果および代謝面への作用の検討	その他

◆老健わかば他

論文・教科書執筆等

窪田 惺	施設長	ゼロからの脳神経外科学 (ばーそん書房)		書籍
川野和也	訪問看護	平成27年度 地域リハビリテーション専門人材教育研修	初任者研修テキスト、現任者研修テキスト、第5章第3節 生活の再構築を進めるために気に留めること～実際の支援の例を交えて～	書籍